



様式第二号の十三（第八条の十七の二関係）

（第1面）

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和 7 年 6 月 25 日

茨城県知事
大井川 和彦 殿

提出者

住 所 茨城県神栖市東和田4番地
氏 名 鹿島石油株式会社
常務取締役 鹿島製油所長
遠藤 文子

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0299-97-3104

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	鹿島石油株式会社 鹿島製油所
事業場の所在地	茨城県神栖市東和田4番地
計画期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	石油精製業
②事業の規模	平成16年7月1日より精製受託会社となり出荷額の提示は出来なくなりました。
③従業員数	551人
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	添付資料-1参照

（日本工業規格A列4番）

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

平成11年3月、環境対策をより適切に行うため、ISO14001の認証を取得し、廃棄物対策に関する環境目的・目標を掲げ継続的な取り組みを実施してきている。

添付資料－2 参照。

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】 添付資料－4 参照
	(これまでに実施した取組) 1. 所内で強アルカリ処理設備（水硫化装置）を保有しているが、トラブル時は産廃処理となってしまう為、溜め込みタンクを増設し排出抑制に取り組んでいる。
② 計画	【今年度（令和7年度目標） 添付資料－4 参照
	(今後実施する予定の取組) 1. 引火性の廃油については、製造装置等の原料として再使用している。

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 当社では、発生した廃棄物は可能な限り再資源化するために、添付資料－3の「廃棄物分別基準」にて教育をすると共に協力会社を含めイントラネット上で掲載し分別による再資源化を図っている
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記「廃棄物分別基準」を継続し、新規廃棄物発生時等に対応するため、常に見直しを図り、再資源化の推進を行っていく。

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	t	t
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】	
	添付資料－4 参照	
	（これまでに実施した取組）	

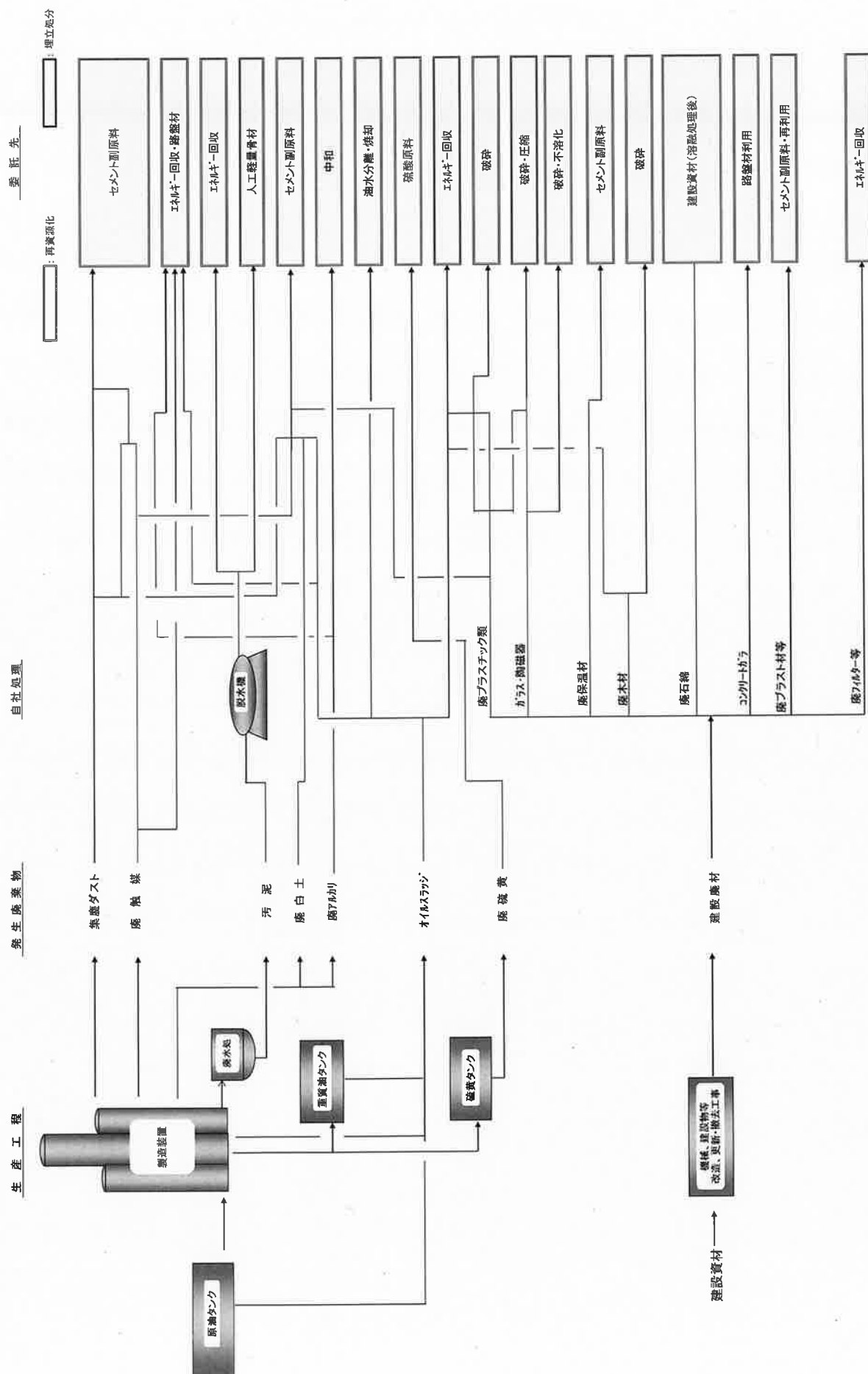
(第 5 面)

② 計画	【目標（令和 7 年度）】 添付資料－ 4 参照
	（今後実施する予定の取組）
※事務処理欄	

備考

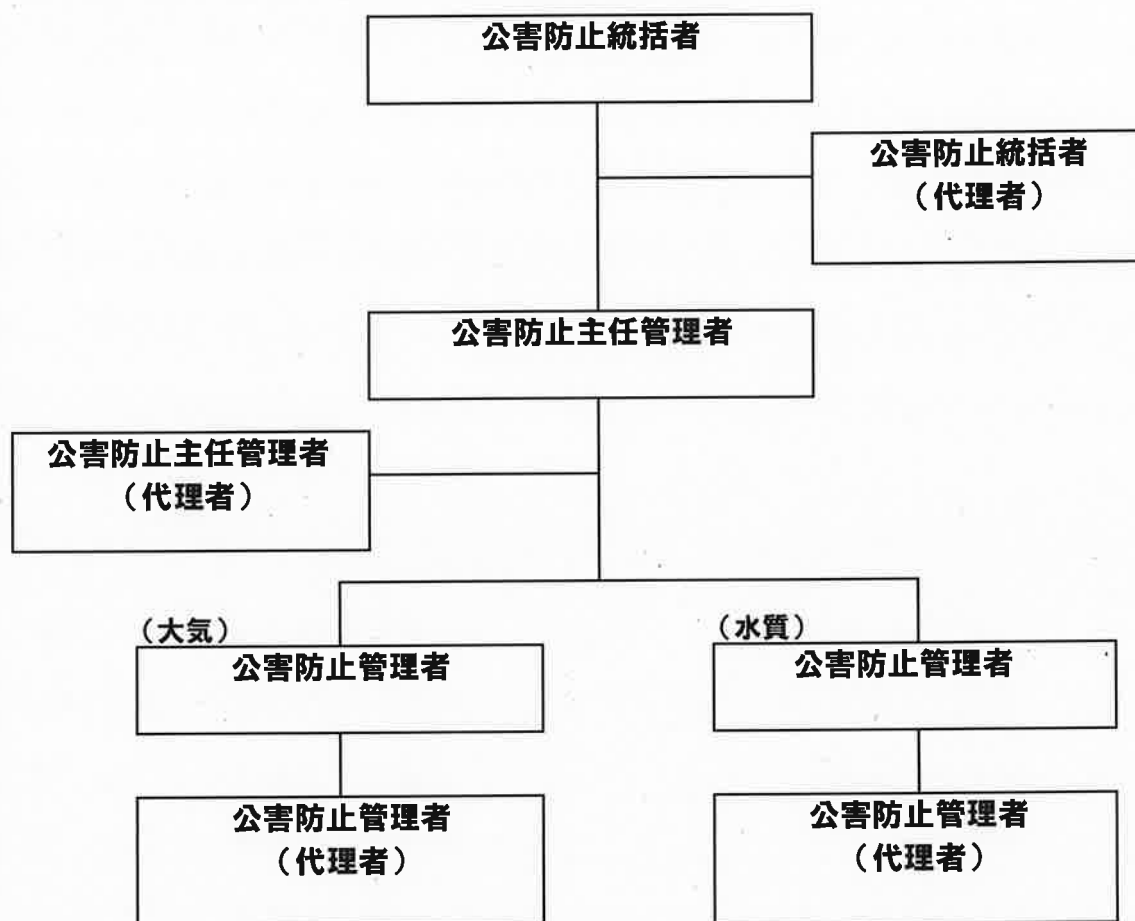
- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物発生・処理工程



公害防止管理組織等一覧

公害防止管理組織表



廃棄物管理者

産業廃棄物処理責任者

環境安全グループマネージャー

特別管理産業廃棄物管理責任者

環境安全グループ員

廢棄物分別基準

[illegible]

【特に下記の6点は徹底してください】

- (1) 破砕装の付着した廃棄物は、自然発火の原因となるので水封後、環境安全グループ指示を受けること。
- (2) 廃棄物を詰めたりビニール袋等には、会社名・職場名・事務所名を記入すること。
- (3) 廃棄物を詰めたりビニール袋等の大きさは45cm以下またはセメタリ袋程度の大きさとすること。
- (4) 廃棄物を所外から持ち込まないこと。また私物は廃棄しないこと。
- (5) 家電製品、バッテリーは廃棄しないこと。
- (6) 下記のものは原則として計画段階から、環境安全グループと相談すること。
 - ・ 飛散性・石結核廃棄物が発生する解体工事等の場合
 - ・ 廃棄物をタンク状の容器からダンパー車等で直接防犯がへち出し処理する場合
 - ・ 廃棄物が多量に発生するなど廃棄物運搬へ搬入が困難な場合（仮設運搬設定、関係グループとの調整要）
 - ・ PCRC指定廃棄物の搬出し指示を受ける事
 - ・ 廃棄物安全法（第13条）に基づき受ける事

⑩ 紙くず (青コンテナ)	⑪ 廃ウエス (黄コンテナ)	⑫ 廃蛍光灯 (小室内ボックス)	⑬ 廃ガラス	⑭ ダンボール (小室内)	⑮ 廃乾電池 (ドラム缶)	⑯ ペットボトル (コナテナ)	⑰ 特定有害産業廃棄物 (紫/黄/青/黒)
<ul style="list-style-type: none"> 紙くず 食品容器のプラスチック類 その他可燃の一般廃棄物 生活生ゴミ 	<ul style="list-style-type: none"> 吸着マット、シーツ類、ビニール類 ゴム類及び手袋(ビニール・ゴム成型) 等は絶対に混在させて廃棄しないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 廃蛍光灯 水銀灯 	<ul style="list-style-type: none"> ガラスびん 理化学用ガラス器具 食器・裝飾用ガラス容器 破ガラス 	<ul style="list-style-type: none"> ダンボール類 	<ul style="list-style-type: none"> 廃乾電池 	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトル (リサイクル回収) 	<ul style="list-style-type: none"> 炭素質有害廃棄物 廃PCB 廃水道廃棄物 その他有害廃棄物 (有害廃棄物類、有害廃棄物含有廃棄物)
<ul style="list-style-type: none"> 神奈川県の「資源物」に指定されているもの 食品容器類は内容物を取り除き洗浄して廃棄すること 缶、金属類、空きビン等のガラス類、ウエス等を混在させて廃棄しないこと。 ダンボールは、⑩に廃棄すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 廃ウエスは、ビニール袋(45L以下)へ入れて廃棄すること。 油が染るくらい多量に油が付着したものは、⑨のスラッジドラム車庫に搬入すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 廃蛍光灯は、割らないこと 廃蛍光灯以外の物は絶対にボックス内には入れないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 付着物及び内容物は取り除き、水できれいに洗浄すること。 フタ等の金属、プラスチック類は取り出すこと。 砕くことはせず廃棄すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ビニール、緩衝材は取り除き廃棄すること。また、ゴミ等を入れて廃棄しないこと。 ダンボール、袋等の内容物は取り除くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 廃乾電池以外は絶対にドラム缶へ入れないこと。 廃棄の際は、缶端を絶縁テープで絶縁すること。 ※セロテープ可 	<ul style="list-style-type: none"> 内容物を捨てた後、水洗する。 キャップを取り出す。 キャップは再資源化できるものを、別途回収する。 透明のビン・袋(70～80L)に入れること。 	

事：コンテナが満杯の場合は廃棄物置場担当者に(セ/ン/ク)の指示を聞くこと

添付資料-2

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

(第4面)

単位:t

【令和6年度実績】

①現状	廃棄物の種類	総計	引火性廃油	強アルカリ	廃石棉等	廃PCB	廃酸		
	排出量	890.89	1.09	876.43	13.37	0.00	0.00		
	全処理委託量	890.89	1.09	876.43	13.37	0.00	0.00		
	優良認定所理業者への 処理委託量	842.56	1.09	828.10	13.37	0.00	0.00		
	再生利用業者への処理 委託量	1.09	1.09	0.00	0.00	0.00	0.00		
	認定熱回収業者への処 理委託量	643.64	0.00	643.64	0.00	0.00	0.00		
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	246.16	0.00	232.79	13.37	0.00	0.00		

(第5面)

【令和7年度目標】

②計画	廃棄物の種類	総計	引火性廃油	強アルカリ	廃石棉等	廃PCB			
	排出量	268.00	0.00	228.00	40.00	0.00			
	全処理委託量	268.00	0.00	228.00	40.00	0.00			
	優良認定所理業者への 処理委託量	268.00	0.00	228.00	40.00	0.00			
	再生利用業者への処理 委託量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
	認定熱回収業者への処 理委託量	200.00	0.00	200.00	0.00	0.00			
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	68.00	0.00	28.00	40.00	0.00			